



トレンドスポーツの可能性と影響

マレーシアは、これまでオリンピックで金メダルを獲得したことがなく、伝統的にスポーツの国として認識されていませんでした。しかし、近年マレーシア国内ではスポーツへの関心が急速に高まっています。健康に対する意識の向上も一役買っていることが理由として挙げられますが、スポーツを趣味や社会的交流とも捉えているのです。高温多湿な気候のため、エアコンの効いたショッピングモールやカフェテリアで時間を過ごす人が大半でしたが、さまざまなスポーツを通じてレジャー活動の選択肢が増え、友人や家族との交流を楽しむ機会となっています。

多くの国ですでに人気のあるピククルボールは、マレーシアでは最近になって注目されてきており、非常に関心の高いスポーツとなっています。ピククルボールとは、卓球やテニスなどを基に考えられた競技で、テニスのようなコートを使用しルールもテニスに則っています。パドルというラケットを手に取り、都市部や郊外にあるコートに行き、打ち込む人が増えています。ピククルボールの急速な人気の高まりは、用具やスポーツウェアの販売増に繋がり、コートの新設にも繋がっています。このトレンドは、拡大する市場を利用しようとする投資家にとっては有利なビジネスチャンスとなります。コートや用具レンタル、会員制、コーチングレッスン、トーナメントを通じて有望な収入源が確保されており、さらにイベント、リーグ、用具、アパレル、人気選手の関連商品などのグッズにも収益機会が広がる可能性があると考えられています。

います。

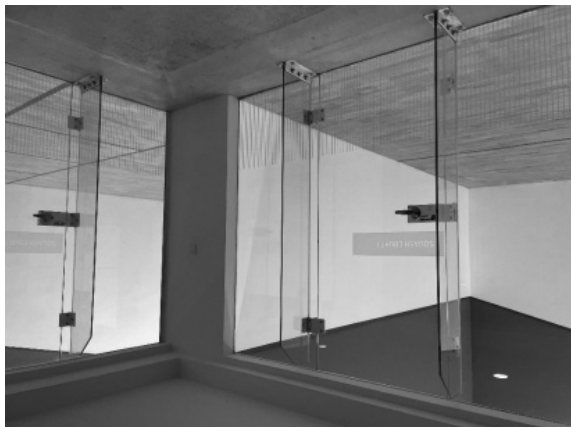


2024年のパリ・オリンピックの雰囲気をもたらす、かわいらしい紫のピククルボールコート
(出所：<https://www.courtsite.my/centre/KL%20City%20Pickleball/clxk1e58g0uxp07boy7o21zf7?noNit=true>)

マレーシアのラケットスポーツ好きは、バドミントンから始まりました。マレーシア人バドミントン選手、リー・チョンウェイなどによる国際舞台での活躍が、国民に民族の誇りを植え付けたため、このスポーツは長い間人気があり、国技と見なされてきました。公園やスポーツセンター、さらには自宅の敷地内でも、あらゆる年齢の人々がバドミントンをしているのをよく見かけます。多くの集合住宅では、設備の一部としてバドミントンコートを提供しています。バドミントンは娯楽だけでなく、家族や友人との絆を深めるのに最適なスポーツでもあります。バドミントン

は、コート、コーチングサービス、用具に対する安定した需要があり、より確立された市場なのです。

テニスは、用具、コーチングサービス、コートレンタル料が高いため、マレーシアではそれほど主流ではないですが、情熱的なコミュニティが形成されています。一方、スカッシュはマレーシアではニッチなスポーツにとどまっていますが、ニコル・デーヴィッドのような世界トップクラスの選手を輩出しています。ラケットスポーツへの関心が総合的に高まっている現在、マレーシアでもスカッシュへの関心が復活するかもしれません。結局のところ、マレーシアには、スカッシュコートを常設した多くのスポーツクラブや住宅クラブハウス、コンドミニウムがあり、せっかくのスカッシュコートをフル活用しないのもったいないとも思います。



まだ新しいめったに使われないスカッシュコート

最近、若者の間では、ゴルフも静かなブームになっています。手頃の価格で、ゴルフ練習場や室内シミュレーター等の施設が利用可能となり、これらの施設はコーチングを提供しています。これにより、ゴルフがより身近になり、幅広い層にとって魅力的なものとなっています。



クランバレーに数多くあるゴルフ練習場のひとつ

多くの人にとって、これらのアクティビティは自分のライフスタイルやファッションセンスをソーシャルメディア上でアピールする手段となっています。スタイリッシュな衣装や絵のように美しい場所は、オンラインサービスで共有するには最適で、スポーツ関連事業やブランドを広告する助けにもなります。こうしたアクティビティが人々を結びつけ、活動的であり続けるよう促すことができるのは素晴らしいことだと思います。

著者紹介



Lee Jia Ee
(ジャー・リー)

マレーシア弁理士。メルボルン大学でバイオメカニクスを専攻し、生物医学工学学士号を取得。機械、電気、バイオ分野が専門。英語、中国語が母国語。日本企業のマレーシア、シンガポールの現地法人における発明発掘、権利化が主な担当業務。東南アジアの多国籍企業、上場企業、大学での知的財産セミナー講師としても活躍。



【参考】 www.unitedgips.com

編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、弁理士法人 新樹グローバル・アイビー所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所での知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠。